第３回　鎌倉市観光基本計画策定委員会　会議録

日時；平成１８年３月２８日(火) １４時から１６時１０分まで
会場；鎌倉市役所２階　第１委員会室
出席委員；古谷委員長、菅原副委員長（以下、あいうえお順）
　　大嶋委員、大津委員、城戸委員、國生委員、小西委員、中根委員、
　　浜田委員、藤川委員、古谷委員
出席職員；進藤部長、植松次長、宮田課長、中野課長補佐、茶木副主査、鈴木主事
傍聴者；１名

会議の概要；
　基本理念、基本方針（案）について意見をいただき、さらに具体的な実施計画事業について提案をいただいた。

議事の概要；

１．開会のあいさつ

２．庶務事項

委員長；
　今年度最後の策定委員会として、年度末のお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。次第２の庶務事項について、事務局説明をお願いします。

事務局；
　会議の公開については、本日の会議を公開するということで広報かまくら３月１５日号で傍聴者の募集を行いました。その結果、１名いらしていただいております。傍聴者の方には、お手元の資料は委員に配布したものと同じなので、お持ち帰りいただいて結構です。会議の運営についてご協力をお願いいたします。
　会議録につきましては、先日確認をしていただき、訂正してまとめました。後ほどホームページに掲載をしていきたいと思います。
　続きまして、資料の確認をさせていただきます。郵送では「会議の次第」、「資料１基本理念、基本方針案」「資料２図表データ」及び「第２回観光基本計画策定委員会の会議録」です。本日配布しましたのは、「平成１８年度観光基本計画見直しスケジュール案」となっております。

委員長；
　傍聴者、前回の会議録、そして資料とみなさんよろしいでしょうか。【了解の声あり】

３．審議事項

（１）新たな基本理念、基本方針（案）について

委員長；
　では、「新たな基本理念、基本方針（案)」について、事務局から説明をお願いします。

事務局；
　資料１に沿って説明をさせていただきます。１ページには、これまでの議論で基本理念、基本方針は概ねこれまでどおりでも良いのではないかとのスタンスに立ちながらも、委員からは鎌倉らしさ、鎌倉の魅力などの意見をいただき、また今回の策定調査の結果から見えてきた課題や提言などを一覧としてまとめたものです。
　これらの提言などを整理しキーワードとしてまとめたのが右端にあり、「推進体制の構築」「役割分担の明確化」「鎌倉らしさの追求」などとして整理することができました。
　これらをふまえて、２ページに新たな基本方針案を示しております。左側が現行計画の方針とその順番になっており、右側が新たな基本方針案を説明したもので、前回と違うところは、前回はソフト、ハードに関するものが混在していたようなので、今回はその部分を整理しまとめたこと。さらにこれまでの議論の中でも重要視されていた推進体制の構築を新たに加えたものとなっております。
　ソフトな部分としては、「（１）観光都市鎌倉の質の向上を図ります」として、「ア鎌倉らしいもてなす意識の向上と市民、観光客の共生を図ります。」「イ多様な観光行動に対応する情報提供とネットワークの充実を図ります。」「ウ観光によるまちの活性化を図ります。」の３本立てとしています。
　ハードな部分としては、「（２）快適な観光空間を確保するための観光基盤、施設の整備を図ります」として、「ア歴史的遺産と自然の保全を図ります。」「イ誰にでもやさしく、市民と観光客が共用できる観光基盤の整備を図ります。」と「ウ住環境に配慮した交通政策を推進します。」の３つに整理しています。ウの交通政策については、ここまで観光基本計画に盛り込めるか分かりませんが、委員会としては強調したい部分と理解していますので、頭だししています。
　最後に、推進体制の整備として、「（３）連携と評価を目指した推進体制の構築を図ります。」をあげて、いわゆるＰＤＣＡサイクルを取り入れたチェックシステムの構築を目指しています。以上が新たな基本方針案ですが、今後実施計画事業が議論されると、当然それに合わせた表現に見直していくことが求められるので、現時点ではあくまで案としてイメージしていただきたいと思います。
　次に３ページに移りますが、ここでは新たな基本方針について、そのイメージとして、前回の計画における施策の方向性・具体的な取り組みを仮に当てはめた場合として、網掛けで示しています。その右隣には、１０年後のイメージとして、各種の取り組みを行った結果、どのような状態になるのかを例示し、その目標の達成度を示す指標の案を例示しています。
　例えば、１－ア鎌倉らしいもてなす意識の向上・・・の部分では、観光事業者や市民を対象に「おもてなし講習会」などを開くことによって、観光客に対するサービスが向上し喜ばれるようになっている状態を示し、それらを示す指標としては、講習会や交流イベントなどの活動実績をアウトプット指標として示し、またその成果を図る指標として、アンケート結果などによる満足度をアウトカム指標として示すことによって、事業の進捗状況を説明しようとするものです。
　以上が基本方針案についての説明ですが、これらの基本方針から逆に基本理念をどう考えるか、あるいは基本理念の見直しは必要なのかを、計画書の前文イメージから説明したのが４ページ以降の説明になります。
　４ページでは、平成８年以降の鎌倉の観光を取り巻く環境として、これまでの１０年間の環境や社会情勢の変化、行政の取り組み内容などについて簡単に説明しています。＜＞で括

った中のページは、資料２図表データにおける参考図表に対応しておりますので、参考にしていただければと思います。図表データでは、前回計画に登載したものと同様のデータを集めて比較していますが、鎌倉観光の特徴を示しているデータのほとんどは、今回調査しても同じ結果となっているのが驚きでもあります。

５ページに移りますが、観光都市鎌倉のあるべき姿として、これまでの議論をまとめる形で示しています。あらかじめ訂正をさせていただきますと、２行目の禅宗のあとには、「などの宗教文化」という言葉を追加していただきたいと思います。よろしくお願いします。

内容については、文章のとおりですが、この部分については、ぜひご意見をいただきたいと思っております。

続いて６ページには、あるべき姿を共通認識できたとして、今後の観光基本計画の策定に向けて、どう取り組んでいくのかを示しています。図が示してありますが、これまで、ともすればバラバラであった各主体が、これからは観光というキーワードを中心に連携し、協力して取り組んでいくことが必要であるということだとしています。

こうした整理をふまえて、７ページには、やはり現在の基本理念を踏襲し、新たな基本計画においても基本理念として位置づけられるべきであるとまとめています。

この基本理念、基本方針案については、庁内の観光に関係する課長級で構成する検討会においても同じ資料を提示し、それぞれの課内での検討をお願いしていますので、いろいろ意見が出るかと思います。特に、２－ウの住環境に配慮した交通政策の部分は、委員からも１３４号周辺の海岸整備をすべきではとの意見も多かったので項目だししましたが、各課の考えでは、すでに海浜公園として都市計画決定されていることなどから大変厳しいものがあるとの指摘も受けています。

市には、都市マスタープランや景観に関する計画など、それぞれの個別計画を持っておりますので、それらとの整合を図ることも必要です。したがって、庁内の意見からも今日提示した案は見直しをする可能性がありますので、委員からも具体的にこうすべきだという意見をいただければと思います。

以上です。

委員長；

前回の計画と比較して、この委員会としてのオリジナリティをどう出していくかになってくると思うが、今回のソフト、ハード、連携･評価の３本柱に整理されたことと、それに対応した時間軸を取り入れ､色々な指標を取り入れたところが､オリジナルティといえると思う。これでよいのかどうか。

基本方針のまとめ方、方向性などについて議論していただきたい。

副委員長；

１０年後のイメージや目標の達成度を測る指標を出す、非常に分かりやすい。しかし、１０年後のイメージについて、こうなるであろうということが広範囲に入ってしまっては論点がぼけてしまうような気がする。そのバランスが問題。ただ、前回にはない考え方なので、ぜひこの形でやっていただきたい。

付け加えれば、１０年後のイメージの中で、世界遺産に登録されている・・・は、難しいのではないか。構想スタイルは結構です。

委員；

大変すばらしくまとまったと思う。どこかに盛り込んであるならいいが、１０年後に訪れ

る人の気持ち・意識と住んでいる人の間のギャップみたいなものをどう埋めるのかを入れてもいいかなと思う。

委員；
　これまでの計画と常に対比されながらまとめつつあると思うが、整理されるとなおさら鎌倉市の観光基本計画だからこその言葉の大切さが必要になってくる。
　例えば、１ページの上から２段目の鎌倉ブランド、スローフード、ロハスという言葉は今風だが、これらの流行ことばがどれだけ生き残れるのか疑問を感じている。むしろ、鎌倉から始まるくらいのスタイルや言葉を目指すべきで、鎌倉を愛して何度も訪れてくれるスタイルのようなものをもう少し丁寧に語りたいというのが一番の感想である。
　２ページの方針の骨格についていえば、「観光都市鎌倉の質の向上・・・」とあるが、今観光都市という言い方のほか、都市観光とか言われる。京都、熱海は観光都市だが、むしろ鎌倉は観光都市だけでは差別化できないので、観光文化都市、交流文化都市、交流観光都市あるいは日本の観光都市鎌倉というくらい強く、さすが鎌倉らしいという看板を掲げたほうがいいと思う。

副委員長
　前回の６つの方針を３つにまとめた明確な根拠とか、５番目にあった質の向上を１番に持ってきた順番の問題、これらについてどうか。本来順番はないのではないか。前回の順番のほうが鎌倉らしいような気がする。

事務局；
　ご指摘のとおり、これまでの６項目をソフト、ハード、及びその推進体制の３項目に整理したものである。

委員；
　１０年前の一番である「歴史的遺産の保全」が、今でも一番であることに変わりはないと思う。本来ソフト、ハードの区分けというよりも、２－アに入っている「歴史的遺産と自然の保全を図ります」というのは、守るべきは守るという骨太の方針であって、このアは、「観光都市鎌倉の質の向上を図る」ということの上に位置すべきくらいでいい。その下に鎌倉らしいもてなしや自然の保全などのソフト、ハード両面がかかってくると思う。

委員；
　ソフト、ハード、推進体制の分け方は非常に分かりやすくなったと思う。１０年前の計画は、個々には出来ていたが具体的な推進に至らなかった。そのことをふまえて、鎌倉市のまちづくりの在り方を変えていこうということであって、実際に行動に変えていくことが必要である。そういう意味で、１の質の向上は、市民に対して観光文化都市として生きていくことが今後大きな柱の一つになるということを訴える意味で必要である。単にパンフレットなどで訴えるのではなく、まず市民にこの考えを知らせることが重要である。

委員；
　同様の意見で、考え方はこの３つで分かりやすいが実行に移すということになると、実行しやすい組み立てになったのではないかと受け止めている。その辺が分かりにくいのであれば、例えば前文あたりでフォローする説明を入れると解決されるのではないか。

委員長
　２－アが重要であることであれば、理念に持ってきても良いのではないか。
歴史的遺産の継承と自然の保全を念頭に、「住んでよかった・・・」につながるほうが３本の方針すべてにかかることになる。

委員；
　観光に焦点をあてて話をしていくわけだが、本質的には鎌倉のまちづくりをどうしていくのかということであって、３０年後にどういうまちになっているかの視点が一番大切である。
　この１０年間、観光に限らず市民参加の取り組みを行ってきているので、それらとの整合性も必要となるが、いずれにしても鎌倉にとって明るい展望を築くことが大切であって、そのためにまず市民の意識が変わらないと何も変わらないんだということを大きく市民に訴えていくことが必要である。

委員；
　ソフト、ハードに分けているが、市民一人ひとりが自分は何をしなければいけないかをはっきり理解できたほうがいい。ハードは行政がやる部分、ソフトは市民が取り組むべき部分といったわけ方にすると分かりやすいのではないか。誰がやるのかを示さないといけない。

委員長；
　６ページの推進体制の図で、プレイヤーがいくつか出ているが、ここをもっと強く市民を前面に出して取り組むようにしていくのも良いのでは。

委員；
　５ページ、６ページは大変重要な部分で、まだまだ足りない部分であってもっと加筆すべきであると思っている。さすが鎌倉らしいと言われるくらい、キーワードの羅列、一つ一つが良いか悪いかは別にして、その一言ずつにもっと解説するくらいの説明や丁寧さがあっても良い。

委員；
　いろいろ突っ込むことによって、庁内では問題もあるかもしれないが、これからの市全体の計画も変えていくくらいの文章であると思っている。

委員；
　６ページの右の図には、ここに鎌倉市外の人たちがかなり関わってくるはずで、それが抜けているように感じる。

委員；
　市民と行政などのもてなす側だけしか出ていないが、観光客も加えることによって何か訴えられるのではないか。

委員長；
　マスタープランの方針としては、もてなす側の表現が多くなってしまうので、前文のほうで、どういう人に来ていただきたいかというメッセージをいれることもある。

委員；

市民に対して自分たちはこうすべきだと言うのであれば、観光客に対するメッセージもなければ市民は納得しないのではないか。１０年後に住んでいる人や訪れる人のイメージを示すことも必要では。

委員；
行政の計画にはマーケティングの視点が欠けていることが多く、誰にそれを伝えようとしているのか、これまでは誰＝観光客でよかったが、これからはそんな荒っぽいイメージではく、鎌倉に移り住みたいというような人とか、日帰り都民でも外国人の方でも鎌倉を愛してくれる人たちを大事にしていくといった、誰かをきちんと示したほうがいい。

委員；
観光客そのものも地元民であることがありえる。観光都市にするということは、いいまちにするということで、住んでいる人も納得できるし、アジアから来る外国人たちに対してはハード面での取り組みで解決できることもあるし、精神性は寺社仏閣で対応できることもある。

委員；
観光客の皆さんに来ていただくために、鎌倉はこうしますというメッセージが必要だと思うが、来ていただきたいのか欲しくないのか、制限しようとしているのかが難しい。来てもらいたいが、多くは来てほしくないという感じなのか。

委員；
来ていただきたいというスタンスは崩せない。鎌倉は工場を建てるわけにはいかないし、観光が大きな産業ですから。どういうターゲットに対して、どういうメッセージを発信するのかを限定するのは、そろそろ、そういう時期に来ているように思う。

委員；
その辺りが、これを読んだ人にうまく感じてもらわないと制限するようなイメージになってしまってはどうかと思う。鎌倉の良さを知ってもらいたい人にメッセージが伝わればよいのではないか。

委員；
鎌倉の観光の質というが、目指すべき観光の質って何かを掘り下げるべきでは。来てもらいたい人､鎌倉の色々な良さを理解している人に又来てほしい､来たらじっくり見てほしい。結果、たとえ１８００万人が増えなくても数字だけにはとらわれる必要はない。滞在時間が延びたとか、じっくり歩いて消費も伸びてきた、とかで良いし、鎌倉らしいことをベースにした目標に向かって、丁寧に取り組んでいくべきだと思う。
端的にいえば、日曜日混んでだめなら、お休みとってウィークデイに行こうよというくらいに意識が変わってくることが大切で、対象を絞り込むのではなく、市民や行政がソフトでもハードでもきちんと取り組むことによって、お客様も変わってくるということ。安易に媚びるべきではない一方で、高飛車に出る必要もない。歴史的価値をきちんとふまえれば数字が出なくても大丈夫だと思う。

委員；
友人を何人か案内したが、お金もかかったが質の高いサービスを提供してもらった。皆喜

んで帰って行った。又来たいといっている。鎌倉の伝統を訴えていけば、少々高くても喜んでもらえる。

委員；
　もてなす側に素敵なホストがいたから、質の高いサービスと満足を得られたわけで、そういう人を増やすことが大切では。

委員；
　対象としてまず市民という考えがそこにはあると思う。鎌倉市でも昔からの人と最近から住んでいる人といろいろいると思うが、そういった人を一緒にして、いきなりガイドをと言っても無理で、その前に鎌倉の謂れから少しずつ週末にでも見てもらって、自分のまちを知ってみようという企画があればよくて、知ったかぶりをしなくても立派なガイドになりえると思うし、おもてなしのベースになると思う。

委員；
　自分の息子も外国の友人を連れて鎌倉を案内して歩いてから、すごく感動して何回も行くようになってきた。若い人も鎌倉を分かるようになるきっかけが必要では。

委員長；
　質がキーワードになってきているが。

委員；
　もうひとつは、子どもたちとの関係で、教育との連携は不可欠で、自分たちの住むまちを理解することも大切である。鎌倉独自の副読本「鎌倉の自然」など、ぜひ分冊にしてそれぞれテーマごとに再編集して配っても良いのではないかと思う。

委員長；
　市民に対する啓発とか再発見などのキーワードを取り込みながら、前文から事務局と再検討してみたい。もう少し丁寧に書き込むことも必要だし、文案についてまたご意見があればいただきたい。時間もあるので、先に進みたい。

副委員長；
　前文は、前回の基本計画のどの部分にあたるのか。

事務局；
　計画の目的、鎌倉観光の概要などの最初の部分にあたる。また、あるべき姿などは基本理念の部分に加えてもいいかと考えている。ぜひご意見をいただきたい。

副委員長；
　前回の導入部分にあたるということなら、インパクトのある文章をお願いしたい。

（２）実施計画事業について

委員長；

次に、「実施計画事業」について、事務局から説明をお願いします。

事務局；
資料１の３ページをご覧ください。この方針案を仮にオーケーであるとして、それぞれの方針に見合う事業を当てはめていくことになる。庁内の各課に対しても現在１８年度以降の総合計画実施計画事業を中心に事業の洗い出しを行っており、事業の内容によっては、方針の文言も変更していく可能性も十分にある。あまり方針案にこだわらずにご意見をいただきたい。
なお、基本方針案の構成について補足説明すると、前回の計画では、基本理念、基本方針を受けて、実施計画事業（具体的な取り組み）に繋がる間に、「創る観光」「賑わう観光」などの５つの目標や施策の方向性などが間にあり、方針と事業の結びつきが今ひとつ分かりにくかったと反省している。そこで、ソフト、ハードという具体的な取り組みを意識した分け方にした。そして、ソフトを第一に持ってきた理由は、この１０年間で取り組みが思うように進まなかった部分を前面に出して、重点的に取り組んで行きたいと考えたからで、その主体は誰がということは、皆さんのご意見を参考に次のレベルで書き込んでいきたいと思っている。
資料１の９ページには、これまでいただいたご意見をまとめているので、参考にしていただきたい。

委員長；
３年以内にできるとか、５年の中期、それ以上とか、主体は誰なのかとか、地域・場所はどこで行うのかなど、いろいろ整理しながら意見を伺いたい。先ほど出ていた市民の啓発を進めることも加えて良いのではないか。

副委員長；
宗教施設としては、八幡様の前を横切るときに、地域の方が自転車をわざわざ降りて頭をさげて挨拶されている、あの素晴らしい光景を取り戻したい。やはり、鎌倉の中心は八幡様であり、寺社を敬う姿勢を出してもらいたい。

委員；
そのとおりだと思うし、その姿をどういう風に表現するかというと、美しい姿、美しい鎌倉ということで、実は大変厳しいことだと思う。でも鎌倉の人たちはやっている、満足もしている。それが見えるようになってくると、観光客もかっこいいと思うようになって、ああいう風になりたい、ああいう風に生活したいというのが見えてくる。

委員長；
それを具体的な事業としてやるとなると、小中学校の授業か何かでやるということか。

委員；
鎌倉の観光振興について、宗教界の方がたはどう思っているのか。市民の感覚からするとお賽銭等で寺社仏閣はかなり潤っているように見えるが、一方で観光客を楽しめるような取り組みを積極的に行ってくれる気があるのか、市の観光都市として取り組む姿勢と一体となった協力をしていただけるのかどうか。

委員長；
　推進体制の具体策の中でどれだけ協力いただけるのではないか。

委員；
　私は建長寺に中で育ったので、自然に頭をさげる風習が身に付いてしまっているが、子どもたちをお寺さんにいれるハードルを低くしてもらえたらありがたい。グループ活動の小学生が、門前でお小遣いが１０００円しかないので拝観料が高いから入らないと言われてしまう。お店でも子どもに対して、特別料金で提供しようと取り組んでいる。長期的なスパンで考えると有効ではないかと考える。

副委員長；
　我々としては、観光客の制限もせざるを得ない状況もある。

委員；
　今時の小学生はものすごくお行儀が良くて、４－５０代のグループよりは良いことを付け加えます。

委員；
　東京のホテルの方から外国人向けに流鏑馬のビデオはないかと相談されたので、いろいろ探してみたが結局なかった。そういった外国人向けのＤＶＤを考えてほしい。

委員長；
　従前からの考えでは、そういうのは観光協会が作るものだと思うが、皆さんはどうか。

委員；
　本来は、観光協会だと思うし、なければないでもう少しネゴシエイトしてくれる気持ちが必要だと思う。自分も協会の理事だがなんとかしなければいけないと思っている部分でもある。

副委員長；
　観光協会に連絡して知らない、分からないでは誰がやるのかということになってしまう。協会の活動も市民が評価すべきではないかと思う。

委員；
　そのとおりで、鎌倉駅前にも大きな案内センターが必要で、協会がしっかり存在感を示さないといけない。

委員；
　観光センターというと旅館を紹介するだけの旧来のイメージとなるが、情報センターとなるともう少し違うものが見えてくる。

委員；
　野村総研の跡地も情報センターや鎌倉の情報発信の中心地とすべきではないか。

委員；

日本全国の観光地で問題になっているのは、資源の問題もさることながら、組織、仕組みの問題である。観光協会は旧来の観光スタイル、仲間たちを取り持ってきた。しかし、観光がまちづくりと一緒になって捉えられるようになると、観光事業者以外のＮＰＯやボランティア、自然保護の方などと一緒にネットワークを組まないといけなくなってくる。そうすると、旧来の観光協会では情報不足とネットワーク不足となる。だから、そういう風に作り変えていくか、新たに作り出すかだと思うが、それはそれぞれの考え方なので鎌倉でこうしたらとは言えない。

今全国の観光協会の仕組みで一番注目されているのは、北海道ニセコ町の観光協会で、株式会社化し、半分を町が残りを町民の出資で補い、物産の企画販売、ツアーの売出しなどを収益事業として地域にプロデュースしている。

鎌倉でやるとしたら、鎌倉ならではの特色を出さないといけない。３ページの表で、現実の鎌倉の観光の魅力や資源を考えると、ソフト、ハード一緒になってやっていかないとうまくいかない事業があるはず。そういう事業をどう整理していくのか。この構成はこれで分かりやすいが、体験学習などと交通の欄にある「歩く観光」は、鎌倉観光の基本でハードだけの問題ではないので、地元の方のおもてなしや親切な案内などのソフトがついてくるべきではないか。縦に区切るような区分けをこの次に入れてもいいかと思う。

委員；

１３４号線の整備、やはり根本的な４車線整備やマリンスポーツ施設の整備なども必要ではないか。

委員；

プロムナード化しようという話も以前したが、あくまで手法例であり具体策を書くと、その手法について現状ではうんぬんとの話になってしまうのだが、１３４号線は、出来るできないは別として思い切って地中化なども含めたダイナミックな検討をするということが大切なのではないかと思う。ひとつの検討課題として入れておくべき。

海のことは、全体として考えなければいけないし、レクリエーションとしての要素が減ってきていることも見逃せない。

委員；

県・国がらみに動かないと海は変わらない。鎌倉の海岸をどうするのかを打ち出し、モデル地区としての位置づけを得ないと動かない。海は癒しと言われている、それを前面に出して森林浴と合わせて出すべき。県も砂浜を考えていこうと動き始めている。何とか盛り込んでほしい。子どもたちの海離れも考えないといけない。

委員長；

計画に盛り込んでいける部分と計画には出せなかったけど、追加していくようなこともプラスアルファとしては良いのでは。

周辺自治体との連携の視点からはどうか。

委員；

観光はまちづくりそのものだが、観光客を増やしたいと言っても受け入れ態勢の問題もあり、駐車場がないと呼べないし、観光部門だけでは進まない。東京ベイツーリズムとして、東京、千葉、埼玉、神奈川県に４政令市を加えて首都圏レベルで観光を考えていこうというもので、例えば、ほとんどの港が物流のためにあって、そこまでのアクセスも悪い状況にあ

る。防災面からも船は必要であると言われているが、観光面から船を使ったアイデアを地元主導で、ぜひ大きな声をあげてもらいたい。

委員；
　方針の１－ア、イは、まちで働く人の研修、教育を真剣に考えることが質にかかわってくると思う。継続的にどこが主体になってやっていくか、個人的にはボランティアの方では無理があるような気がしている。鎌倉でお客様を迎えるためには、プロフェッショナルが求められているのだと思う。きちんとお金を投資して地道にやるべきだと思う。

委員；
　鎌倉には、大学のＯＢや一流企業のＯＢなど、質の高い人たちがたくさんいる。そういう人たちは何か役に立ちたいと願っている。団塊の世代より高い年齢の人たちでもたくさんいる。声かけ次第ではないか。

委員；
　サービスのプロは、知識や経験だけでなくホスピタリティのプロであって、一般のリタイアした方が出来るかというとちょっと違う。この場合、バリバリの現役の人にやってもらわないと意味がない。

委員；
　先ほどの続きで、縦軸で鎌倉の良さを持ち帰ってもらおうと思うと、歩いてもらうのが一番で、そのためのルートやテーマ性はもう十分ある。公共交通との連携を謳う必要があるのではないか。江ノ電、ＪＲともタイアップすべきではないか、小田急も一緒に組むべき。公共交通を使い、次の駅に行くとこんな楽しみ、出会いがあると誘導すべき。
　パークアンドライドも出来ればいいが、まとまった土地の確保という点で難しい。

委員；
　現在では、由比ガ浜、七里ガ浜にてパークアンドライドを実施しておりますが、今後江ノ島も実施の予定である。策定調査時の交通関係事業者のヒアリングのときも出たが、お互いに連携すればとの話もあった。基本方針の３本柱として、質の向上という言葉が出てきているが、２と３番目が出来れば質の向上が出来ると考えていた。過去１０年になくて今回出てきたのは、お客さんが多種多様になってきたということ。
　海というキーワードで考えてもサーフィンや海の家、ビーチフェスタ、砂像など、いろいろ出てくるようになってきた。海、癒しをキーワードにすると稲村ガ崎の夕日かなといったように、１８００万のうち多くのリピーターが来訪されるのは、1 年を通して今日は花、明日は歴史というようにその日ごとに出かけるきっかけが様々にあるからで、海に関してもいろいろな団体がある。色々なキーワードごとにとりまとめるところがあったらいい。この時期各社の０６－０７ガイドブックが一斉に発売される。同じ素材でもそれぞれ切り口や見せ方が違う。同じハイキングでも初級、中級、専門的にとかに分かれている。役割分担をはっきりさせた組織体系が必要では。事業者もそれに合わせて協力していけば、主体もはっきりしてくるのでは。

委員；
　実施事業について年度を決めて取り組むのもわかるが、神社としては連続性が大切で教化活動というものに取り組んでいる。幼稚園や親子教室、教養講座もやっている。年間を通し

て歴史、伝統、文化、風土を考えていくことも神社としての社会的役割だと思っているし、癒しは鎌倉の宝だと思っているので、お寺、お宮、森の持っている佇まい、空間にふれることによって人々のやすらぎが得られているのではないか。
　神社には言挙げせずという言葉があって、とにかく黙って掃除していなさいと言われ育ってきた。今は神社から積極的に情報発信していくことが求められており、神職も話をするようになって、教化、広報に力を入れている。鎌倉にきてもらいたい、神社の空間に入って、触れて感じてもらいたい。そして、自分の心を取り戻してもらいたい。自分を取り戻すと人を信じることが出来るようになる。信仰に繋がる。宗教都市という言葉も鎌倉は大切にしていかないといけない。
　心の安らぎを鎌倉で得ることによって、信仰というところまで高められればいいと思っている。来る人を特定できたらいいが、神社は木戸を設けていない。一段の階段で一旦止まることが、さらに一歩踏み出すことになると理解してもらいたい。
　体の不自由な方たちばかりでなく、心の病の方も大勢いて自分を取り戻しに来ている。その人たちが来てよかったと思われる対応をしなければいけない。来る人に対する教化、教育をしていくことが鎌倉の役割であると入れてもらいたい。

委員長；
　時間になってしまいましたので、終わりにしたいが、今日のご意見を事務局でまとめて整理したいと思う。

４．その他

事務局；
　ありがとうございました。次回も引き続き、実施計画事業等について議論をお願いしたいと思っているが、ご意見等あればメモでいただきたい。
　１８年度のスケジュール案を別紙で示しているが、次回は５月２５日、次々回を７月３日にしたい。ご協力をお願いします。

委員長；
　以上で終了にしたいと思います。長時間になりましたが、ありがとうございました。

＜終了＞